

日本簿記学会 第40回 全国大会

統一論題: 簿記の外延を考える

(於: 神戸大学)

デジタル時代の 財務諸表監査と会計記録

2024年8月31日

小澤康裕

(立教大学)

ozawam23@rikkyo.ac.jp

目次

- 1. 社会・企業環境の激変
- 2. 財務諸表監査
- 3. 社会・企業環境の2つの変化
- 4. 監査対象の変化
- 5. 監査方法の変化
- 6. 監査意見の変化
- まとめ

1. 社会・企業環境の激変

- ・ 現在、社会、そして、企業を取り巻く環境は激変している
 - 人間は変化を正確に捉えるのは不得意

イノベーションの世界史

A black and white illustration of several prehistoric hunters in a landscape, some holding spears and others with bows. The scene is overlaid with a dark semi-transparent box containing text.

狩猟時代

40万年前

40万年前－1万年前
= **39万年間**

15歳で子供を産んだ
とすると、

【約26,000世代後】

A colorful illustration of a prehistoric agricultural scene. In the foreground, a man is plowing a field with a wooden plow. In the background, other people are working in a field. The scene is overlaid with a dark semi-transparent box containing text.

1万年前
農業革命

農業革命

1万年前

苗作り **B**

田植え **C**

10000年前-200年
= **9800年間**

20歳で子供を産んだ
とすると、

【約490世代後】

約200年前
(1800年)

産業革命

産業革命

約**200**年前
(1800年)

1980年-1800年
= **180**年間

25歳で子供を産んだ
とすると、

【約7世代後】

約**40**年前
(1980年)

情報革命

狩猟時代
40万年前

39万年間 (÷15歳)
【約26,000世代】

農業革命

1万年前

苗作り

田植え



9800年間 (÷20歳)
【約490世代】

産業革命

約200年前
(1800年)



180年間 (÷25歳)
【約7世代】

情報革命

今、我々が
生きている時代

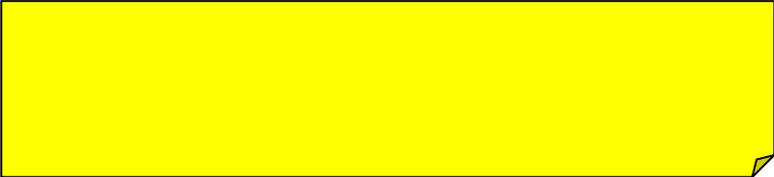


60年間 (÷30歳)
【約2世代】?



「実際に空を飛ぶ機械が、
数学者と機械工の協力と不断の努力によって
発明されるまでには、百万年から一千万年かかるだろう」

1903年 ニューヨーク・タイムズ

 ライト兄弟 初飛行に成功

「コンピュータは売れても世界全体で5台だろう。」

1943年 IBM社長 トーマス・ワトソン

The background features a dark blue field with a grid of thin, light-colored lines. Overlaid on this are numerous bright, glowing lines in white, yellow, and orange, which appear to be moving or vibrating, creating a sense of dynamic energy and complexity.

世界は
「驚くほどのスピードで変化」し
「不確実性を高めている」

2. 財務諸表監査



- 財務諸表監査の定義

- 「経営者の作成した財務諸表が、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、企業の財政状態、経営成績、およびキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているかどうかについて、監査人が自ら入手した監査証拠に基づいて判断した結果を意見として表明すること」(山浦久司『監査論テキスト』5頁)

- 監査を含む保証業務 ← 社会・企業環境の変化

デジタル化による変化

社会のニーズによる変化

3. 社会・企業環境の2つの変化

- 企業によるデジタル・トランスフォーメーション (Digital Transformation: DX) の推進
 - DXに用いられる新たなテクノロジー
 - 人工知能 (Artificial Intelligence: AI)、ロボット、PRA (Robotic Process Automation)、クラウド、Virtual Reality(仮想現実)/Augmented Reality(拡張現実)、5G (第5世代移動通信システム)、仮想通貨などで用いられているブロックチェーン、フィンテック (FinTech) 等
- 環境問題等への企業の対応
- 企業会計 (企業情報の開示) への影響 → 監査への影響

4. 監査対象の変化

・ 財務諸表？

- ・ 将来の企業価値の予測における財務諸表の有用性の低下
 - 「伝統的な会計モデルは、企業経営者にとってのインタangibleズに関する情報提供にあまり役立たなかった」が、その「理由は、会計ルールが、**個々の、また連続的に生じる取引を記録し、追跡し、その累積的影響を示す**ことを目的として形成されている点にある」(Blair and Wallman(2001),邦訳37頁)
- ・ 非財務情報の重視

・ 監査証跡(会計記録等)のデジタル化

- ・ FinTechは、金融に関する様々な先進技術の応用を含み、関連する分野にはビッグデータ、AI、クラウドコンピューティング、ブロックチェーン等がある
- ・ ERP(Enterprise Resource Planning)システムやクラウド会計の普及
- ・ Continuous Auditing → システムの保証
- ・ 従来の監査証跡(証憑書類等) → デジタル記録の利点と課題(デジタル・データ = 揮発性データを含む)
- ・ リアルタイムでのデータアクセスと監査の効率化

5. 監査方法の変化

- 監査人が自ら入手した監査証拠に基づいて判断？
- 監査方法(監査手続・監査技術)
 - 監査証跡のデジタル化
 - データアナリティクスの導入
 - パターン認識と異常検出の精度向上
 - 自動化された監査手続の実現
 - AIと機械学習
 - 自動化と予測分析の活用
 - AIによるリスク評価と監査の精度向上

6. 監査意見の変化

- **監査意見** (意見表明の方法の変化)
 - 一定時点での財務諸表の「保証」からContinuousなシステムの「保証」へ
 - 頻度の高い定期的な意見の提供やリアルタイム報告の導入可能性
 - デジタルデータによる監査意見の補足・強化
 - 継続的な監査結果を反映した動的な監査報告書

まとめ

- 簿記や会計情報を取り巻く環境の変化を正確に理解できているか、あるいは、理解し、対応しようとしているか？
- 継続的な記録よりも、無形資産の期末評価の重視
- 会計判断とその検証の重要性
- 会計記録や会計帳簿への依存の低下→システム(内部統制)の信頼性重視
- データのセキュリティの重視
 - デジタルデータの保護とアクセス管理(処理よりも入力重視?)
 - システムの整合性と信頼性
 - Continuous Auditingを実現するシステムのバグや不具合への対応